

第1部 学校教育 II 現状等

第1章 発達支持的生徒指導

『生徒指導提要』の改訂（令和4年12月）により、生徒指導の重層的支援構造が示され、その中に「発達支持的生徒指導※」が位置付けられました。「発達支持的生徒指導」では、日々の教職員の児童生徒への挨拶、励まし、対話、授業、学校行事等を通じた個や集団への働きかけが大切となります。ここでは、「発達支持的生徒指導」の視点から本地区内における実践を6つ紹介します。

※「発達支持的生徒指導」については、第1部第7章児童・生徒指導の47ページ参照

1 ペアトーク（A小学校）

(1) 目的

中学校区で朝の会や授業中に行っている取組です。A小学校は小規模校であり、交流の相手や機会に限られる傾向にあります。そのため、学年を越えたペアトークを意図的に設定し、多様性を認め合い、自己有用感やコミュニケーション能力を高めることを目指しています。

(2) 活動内容

①指導者がトピックとペアを提示します。

②二人組になり、一方がトピックに沿って30秒で話し、もう一方が内容に合わせた質問をします。

③1セット1分間とし、その後、役割を入れ替えて同様に実施し、計2分間で行います。

I C Tを活用して事前にトピックを児童に示したり、指導者がトークを例示したりするなど、児童の発達段階に応じて取り組んでいます。



3・4年生の取組の様子

(3) 今後に向けて

学級だけでなく、異学年間でも実施していることで、授業中の話し合い活動で自信をもって自分の意見を伝えられる児童が増えました。また、学級内で安心して話すことができる雰囲気の醸成につながりました。今後は、児童の関心を高めるトピックやペアの組み方などを工夫し、継続した取組を実施していきます。

2 人材バンク（B中学校）

(1) 目的

人材バンクとは、生徒が自分の特技や長所をデータベースに登録し、生徒会執行部や生徒会の各委員会、教職員が、登録名簿の中から活動内容に合わせた生徒に協力を要請する取組です。人材バンクへの登録にはI C Tを活用しています。生徒が自分の特徴を生かして主体的に活動する経験を通して、自己肯定感や自己有用感を向上させることを目的としています。



人材バンクによりデザインしたモザイク画

(2) 活動内容

ア 常時の登録と活用

- ・ 生徒が人材バンクに名前と特技や長所を登録します。
- ・ 生徒会執行部や生徒会の各委員会、教職員が人材バンク登録者の中から活動内容に合わせた生徒に協力を要請します。

(例) 学校ホームページに画像を掲載する際に、人材バンクに「パソコンが得意」、「画像編集ができる」と登録していた生徒に作業を依頼しました。

イ 臨時の登録と活用

- ・ 特定の活動に合わせて、人材バンクで生徒へボランティアを募ります。
- ・ 生徒が募集内容を見て協力したい場合に人材バンクに登録します。

(例) 文化祭実行委員会が、全校生徒で作成するモザイク画をデザインする活動に協力できる生徒を募集し、興味のある生徒が登録してチームを作り、作品をデザインしました。

(3) 今後に向けて

今年度から始めた人材バンクの取組が生徒の中に徐々に浸透していき、登録者も増えてきました。今後は、人材バンクの活動をした生徒の体験を伝える取組をするなどして、さらに多くの生徒が自分の良さを生かして自分らしく学校生活を送れる環境作りを目指したいと考えています。

3 みんなで創る学校行事（スポーツフェスティバル）（C小学校）

(1) 目的

これまでの学校行事では受身になって参加する児童が多く、自主的・実践的な活動にあまり繋がっていませんでした。C小学校では、児童一人一人が主役となり、目標や役割をもって自主的・実践的に取り組めるような学校行事にすることを目的として、様々な学校行事を運営しています。

(2) 活動内容

学級活動(1)及び児童会活動と関連させた取組としてスポーツフェスティバルを実施しました。1年生では、「運動会を盛り上げる方法を考えよう」を議題に学級活動を行い、応援替え歌と応援うちわを作ることが決定しました。また、3年生では「団体種目の計画をしよう」、5年生では「障害走の計画をしよう」を議題に話し合うことで、自分たちで決めた競技に主体的に取り組むことになりました。当日の各委員会の仕事は、各学級で話し合った内容をもとに児童が検討しました。



(3) 今後に向けて

教師の適切な支援や関わりのもと、児童とともに「みんなで創る学校行事」を実施することで児童の主体性が育まれました。なお、学校行事、児童会活動、学級活動のそれぞれのねらいについて、教職員間で共通理解を図る必要があります。

4 生徒主体の「ルールメイキング」(D中学校)

(1) 目的

生徒会スローガン「生徒どうしで心を開き合える学校」を目指して、生徒会執行部と専門委員会が中心となって「ルールメイキング」の取組が行われています。生徒が中心となり教師や関係者と対話しながら校則・ルールを見直していく取組です。「対話を通して納得解をつくるプロセス」を学びの機会と捉えています。「ルールメイキング」は、校則を見直すことが目的ではなく、校則を題材に生徒が目指したい学校づくりにつなげることを目的としています。

(2) 活動内容【ルールメイキングの手順】

- ①「ルールとは何か、何のためにあるのか」を確認した上で現状の課題を把握する。
- ②生徒主体に様々な意見や情報を集め、ルールの見直しを行う。
- ③生徒会・教職員等が新しいルールについて対話を繰り返し、みんなが納得する答えを探る。

(3) 今後に向けて

ルールメイキングの活動を通して、社会で求められる合意形成の過程を体験する機会にもなっています。対話を繰り返していく中で、生徒自身の当事者意識が高まり、よりよい生活を自分たちで創っていかうとする意識が向上しています。本活動の目的を大切に、「生徒どうしで心を開き合える学校」を目指していきます。

【「ルールメイキング」の取組の結果、見直しされた校則の一例】

- ・「清潔感のある髪型」の範囲としてツブブロックも認める。
- ・ソックスは白・黒・紺でワンポイントの入ったものは可。
- ・下履きは、ジョギングシューズとし、色は白・黒・紺とする。など



学級に掲示されているルール

5 PUT（パワーアップタイム）（E小学校）

(1) 目的

「勉強が分からない」、「授業の時間が苦手」等、学習に対するつまずきを支援することで登校への不安を緩和し、学業の不振による不適応を防ぐことを目的としています。



PUTの取組の様子

(2) 活動内容

ア 活動日

毎週火・金曜日 朝の活動 15分間

イ 対象児童

各クラスの学習につまずきがある児童2、3名程度

ウ 方法

管理職、通級指導教室の教員等が、本人のニーズに応じた課題への個別支援を行っています。また、自教室で活動する児童に対しては、複数の課題を用意し、自発的に取り組める学習環境を整えています。

(3) 今後に向けて

PUTの中で児童の変化にいち早く気づき、複数の教職員で組織的に対応することで学校生活への不安を取り除くことができます。その結果、新規不登校の予防につながっています。さらにPUTを充実させるため、学習内容や児童の困り感を保護者と共有し、学校と家庭の連携を図っていきます。

6 義務教育学校の強みを生かした発達支持的生徒指導（F義務教育学校）

(1) 目的

1年生から9年生までが異学年交流を通して、上級生には思いやりのある行動や優しい声掛けができることを、下級生には他者との接し方を学ぶことができることを目的としています。

また、児童生徒と教職員という立場を超えた交流を通して、児童生徒が得意なものを自己開示する機会や自己肯定感の向上を図ることを目的としています。



チャレンジランキングの様子

(2) 活動内容

ア 児童生徒会主催の「1年生歓迎集会(チャレンジランキング)」、「クイズラリー」

- 「1年生歓迎集会」は、縦割り班で16種類のゲームを各教室で行います。新入生が上級生との交流を通して、学校や「なかよし班（1～9年の縦割り班）」など、新しい環境や人間関係に慣れることを目的とする機会です。
- 「クイズラリー」は、縦割り班のチームごとに学校内を周り、クイズを解くことで学校や教職員について知ることができる企画です。

イ 先生方への挑戦状

児童生徒が自らの得意分野で教職員に挑戦状を送り、昼休みに真剣勝負を行います。今年度は「ものまねドッジボール」を実施しました。事前に児童生徒会から各先生方へ挑戦状が手渡され、当日出題された「ものまね」をしながらドッジボールをしました。「児童生徒会」対「教員」で熱戦を繰り広げ学校全体が一体となって盛り上げることができました。

(3) 今後に向けて

9年間を見通して、全教職員の共通理解のもと、全児童生徒に対して支援を行っています。また、教職員と児童生徒の関係性が向上し、悩み等を相談しやすい雰囲気構築することができました。今後は、全学年が活躍できる場面を工夫することが必要となります。例えば、本年度は、体育祭の応援合戦において、6年生が前期課程最上級生としての力を発揮できるよう、前・後期課程に分けて実施しました。

このように、これまでの取組を見直しながら義務教育学校の強みを生かし、全児童生徒が輝ける場面を工夫していきます。